

平成28年（2016年）12月期決算概要

会社名 : クラレトレーディング株式会社
 代表者 : (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 村井 研三
 問合せ先責任者 : (役職名) 人事・総務部長 (氏名) 宮西 賢治
 : (TEL) (06) 7635-1636

(百万円未満切捨て)

1. 当期の連結業績（平成28年1月1日～平成28年12月31日）

(1) 連結経営成績

	当 期 (平成28年1月～平成28年12月)		前 期 (平成27年1月～平成27年12月)		増 減	
	金額	利益率	金額	利益率	増減額	増減率
売 上 高	119,498	-	119,640	-	▲142	▲0.1%
営 業 利 益	3,833	3.2%	3,882	3.2%	▲49	▲1.3%
経 常 利 益	4,167	3.5%	3,960	3.3%	207	5.2%
当期純利益	2,795	2.3%	2,605	2.2%	190	7.3%

(注) 当社の連結子会社は、可樂麗貿易（上海）有限公司の1社となっています。

(2) 単体経営成績

	当 期 (平成28年1月～平成28年12月)		前 期 (平成27年1月～平成27年12月)		増 減	
	金額	利益率	金額	利益率	増減額	増減率
売 上 高	118,070	-	118,297	-	▲227	▲0.2%
営 業 利 益	3,551	3.0%	3,695	3.1%	▲144	▲3.8%
経 常 利 益	3,869	3.3%	3,772	3.2%	97	2.5%
当期純利益	2,571	2.2%	2,463	2.1%	108	4.3%

2. 当期の連結経営成績に関する定性的情報

当社は、クラレグループが目指す「世界に存在感を示す高収益スペシャリティ化学企業」の実現に向け、2015年度より推進している中期経営計画『GS-STEP』で掲げた「アジアを中心とする成長市場の積極的な開拓」や「高付加価値商材の開発」に鋭意取り組んでいます。

当連結会計年度（平成28年1月1日～平成28年12月31日）の当社経営環境は、国内では全体としては緩やかな回復基調にあったものの、個人消費の回復に勢いは見られませんでした。また、当社が注力しているアジア市場は、最大市場の中国が各種政策効果もあり期後半には景気の持ち直しが見られました。その他の新興国・地域では、一部で景気減速が続きました。加えて、為替が期初から円高で推移し輸出採算に影響を与えました。当社におきましては、国内は衣料事業を中心に苦戦しましたが、中国は新規顧客の開拓を進めた結果、化学品を中心に拡大しました。

以上の結果、当期の連結経営成績は、売上高は1,194億9千8百万円（前期比1億4千2百万円、0.1%の減収）、営業利益は38億3千3百万円（同4千9百万円、1.3%の減益）、経常利益は41億6千7百万円（同2億7百万円、5.2%の増益）、当期純利益は27億9千5百万円（同1億8千9百万円、7.3%の増益）となりました。

以下< >の中の名称は(株)クラレの商標です。

(1) 営業の概況

【繊維関連】（減収、減益）

売上高は432億4千6百万円。前期比5億5百万円(1.2%)の減収。

(衣料分野)

- スポーツ分野は、学校体育衣料向けが前年並みを確保しましたが、スポーツアパレル向け販売は一部の先で在庫調整の影響を受け、減収となりました。
- ユニフォーム分野は、ワーキング、サービスの各用途で、定番品、新商品の販売が好調に推移した上、直需案件の獲得も堅調であったことから増収となりました。
- 縫製ビジネスにつきましては、生産基地のベトナムへのシフトを進める中、協力工場の増強とプリント工場の新設を実行し(設備投資&融資)、2016年8月に稼働いたしました。
- ブラックフォーマル分野は、ロードサイド店向けが健闘したものの、専門アパレル向けが低調に推移し、減収となりました。
- 機能原糸は、<ミントパール>がタオル用途を中心に販売数量が拡大しました。<クラカーボ>はブラシ、クリーンルーム用途向けに前年並みの販売量を確保しました。一方で期前半を中心とした円高により売上高は前年並みに留まりました。尚、現在増強中の<ミントパール>生産設備は、2017年3月稼働を予定しています。
- 上海現地法人では、現地日系アパレル向けを中心に縫製品販売が拡大しました。

以上の結果、衣料分野は減収、減益となりました。

(資材分野)

- 機能資材は、スポーツ靴用資材が低調に推移しましたが、メディカル関連資材が、既存品、新規開発商材共に採用が進展し、増収となりました。
- 産業資材は、高強度繊維<ベクトラン>が電材用途で、FRC(繊維補強セメント)用ビニロンが土木用途で堅調な販売となったこと等により、増収となりました。
- 人工皮革<クラリーノ>は、国内靴用資材の販売が伸び悩み、減収となりました。

以上の結果、資材分野は前年並みの推移となりました。

【樹脂・化学品・化成品関連】(増収、増益)

売上高は762億5千2百万円。前期比3億6千3百万円(0.5%)の増収。

- 化学品関連は、概ね堅調に推移しました。
- 環境関連資材は、一部用途で苦戦しましたが、概ね前年並みの販売となりました。

(2) 平成 29 年 12 月期の連結業績予想(平成 29 年 1 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日)

当社の経営環境は、国内、中国、アジア新興国において全体としては緩やかな景気回復の動きが見込まれています。その一方で、米国新大統領下での経済・外交政策の影響や、不安定な中国経済の動向、中東等での地政学リスクの高まりなど、予断を許さない懸念材料も多くあると認識しております。

このような状況の下、中期経営計画『GS-STEP』の戦略である、アジアを中心とする海外市場の開拓や、高付加価値商材の開発・拡販に努めて参ります。この結果、次期連結会計年度の業績は当期業績を若干上回るものと予想しています。

(億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
第 2 四半期 (累計)	600	19	19	12
通 期	1,250	40	40	25

<注記>上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいており、実際の業績は今後様々な要因によって大きく異なることがあります。

尚、2017 年度計画における主要事業戦略は、以下の通りです。

- 繊維関連事業における 16 年度投資案件の着実な効果発現(高機能繊維及びベトナム縫製事業の拡大)
- 先行投資的に進めてきた海外拠点整備によるアジアでの販売拡大

以 上